



1. 動物病院におけるさらなる可能性

ご存知のとおり、猫は犬とは違う動物であるが、歴史的に愛玩動物として猫を飼うようになるまで、犬よりも遥かに時間を要していたことが忘れてはならない。猫は犬よりも自立心が強く、人間と関わる際に一定の距離を保とうとする傾向がある。

一般的に猫は、痛みや弱っていることを隠そうとする動物である。その結果、動物病院では猫に起こっている問題の多くを飼い主からの問診に頼らざるを得ない。飼い主は猫の微妙な行動の変化に気付くことが多く、大抵の場合、猫の健康状態や病気の管理について飼い主から多くの

情報を得ることができる。犬とは対照的に、多くの猫は飼い主に一方的に奉仕させるものの、その見返りを与えようとは決してしない。それでいて、猫と飼い主の間にある絆が弱まることもない。また、多くの飼い主は、他人と過ごすよりも自分の猫のために時間を費やすことで、コミュニケーションを図ろうと猫を飼い始めることが多い。

この項の内容は以下のとおりである：

- 猫の飼い主の動向
- 猫の医療レベルの違い
- 猫のビジネスとしての意義
- 猫が通院しやすい病院

猫の飼い主の動向…猫の 飼い主のプロフィールは 変化している

少し前まで猫は招かずとも家の玄関前で拾われていたケースが多かったが、現在ではほとんどの猫が積極的に且つ能動的に迎え入れられている。多くの国で、猫の飼い主の多くは30-45歳の女性であることが分かっている。この年齢の人の多くは、仕事や家事に追われ非常に忙しい時間を過ごしている。現代のライフスタイルでは犬を飼うことが困難になってき

ており、自立心が強い猫の性格を考えると、猫は理想的な伴侶動物ともいえるだろう。また、一人暮らしの人々にもよき家族の一員として迎え入れられる場合が多い。

猫の平均寿命は12-15年と言われており、16年以上長生きな猫も増加してきている。猫をペットとしてではなく、家族の一員として大切に育てられている場合においてより長生きする傾向がある。

猫の飼育頭数の増加や生活様式の変化、飼い主の意識の変化は



世界中の動物病院にとってチャンスと言える。動物病院は猫が生涯健康で幸せであるために重要な役割を担っており、獣医師やスタッフは動物病院と飼い主の関係をより強固にする機会を持つことが大切である。

猫の飼育頭数の増加や猫と飼い主の関係性や飼い方の変化に伴って、世界中の動物病院に大きな期待が寄せられていることは疑うよしもありません。

福祉の向上に積極的に取り組むことで、獣医療や動物病院のさらなる発展に寄与できるだろう。

猫の飼い主の多くが、子猫のうちにワクチン接種や避妊・去勢手術のために動物病院を訪れた後は、猫が重篤な病気にかからない限り、動物病

猫の医療レベルの違い

科学的根拠はないが、飼い主の多くは愛猫に対して十分なケアをできていると考えている一方で、実際には予防医療に関しては十分に実施していないケースが多い。飼い主は予防医療の必要性をなんとなく理解しつつも、日々の忙しさや猫を動物病院へ連れて行くストレスから後回しにしていることが多い。私達もそうである様に、こなそうと努力しつつも実際には行動に移せないでいることがある。

これが猫の飼い主の実情であり、飼い主と動物病院との関係の現実である。動物病院に猫を連れて来ることの難しさや、それに伴うストレスは両者の間の大きな障壁になっている。動物病院への通院のストレスを減らすことができれば、この障壁を小さくできるだろう。飼い主が猫の健康と



院を訪れなくなることが多い。これは生き物を飼うことへの責任の欠如が原因である場合もあれば、猫の体調の変化に気がついていないだけという場合もある。その他、猫を動物病院へ連れて行くことが非常に大きなストレスになっていたり、動物病院で検査のために保定されることが可愛そうと思ってしまい通

院を避けていると考えられる。猫の飼い主の多くは、猫のためにはできることはやってあげたいと切に願っている。

猫のビジネスとしての意義

どの動物病院にとっても、猫の重要性を見過ごすことは出来ない。



適切にアプローチをすることで、猫の飼い主の大部分が犬の飼い主と同じくらい診察費をかけるというデータがある。猫の飼い主の多くが、動物病院に対する期待は高く、受診時に経験したことが後々の病院との関わり方に大きな影響を与える。ヨーロッパでは、1人の飼い主が複数の動物病院を利用する傾向があり、より猫に適した納得のいく医療を提供することが望まれている。

猫にかかる年間の平均支出額は、多くの国で上昇傾向にある。いささか不思議であるものの、未だ臨床医の多くは依然として犬を成長分野として捉えている。しかし、実際には犬が都会で生活しづらくなっていることも影響して、多くの国々で犬の飼育頭数は減少している。以前のように犬だけに注力しては、動物病院の利益を生み出し続けることは困難となってきたのは明らかである。また、多くの国々において、猫の飼い主が動物病院へ通うことやヘルスケアに費用を掛けることに関心が高まっていることが示唆される。例えば、イギリスのデータによると、猫の飼い主は犬の飼い主と比べてライフステージ別の食事を購入・使用しており、ノミ予

防薬や駆虫剤などの予防製品を購入する傾向も高かった。

人間と同様に、猫もまた高齢化してきており、ヨーロッパおよびアメリカでは8歳以上の猫が約半数を占め、12-15歳を超えて健康的に長生きしている猫も多い。このことから、



いずれの小動物病院においても、猫の重要性を無視することはできません。それだけ世の中には多くの猫がいるのです！

猫の健康管理において動物病院が果たす役割は大きい。動物看護師またはテクニシャンが認知されている国々では、飼い主への教育、実践的なアドバイスや動物病院で提供されているサービ

スについての確かな情報を提供するという重要な役割を担っている。

飼い主と長期的な関係を構築するには、猫が病気になったときに単純に治療するだけでなく、猫の健康管理にも積極的に関わるのがより重要といえる。この関係を築くことができれば、猫の生涯の健康管理に携わるだけでなく、動物病院のビジネス面においても大きな効果をもたらすであろう。

すべての飼い主が推奨された健康管理プランを実施する訳ではなく、勧められたものを積極的に取り組む人もいれば、不本意

ながら行っている人も少なからずいる。しかし、猫の福祉や健康の維持のために、動物病院の真摯な姿勢や取り組みを示すことが出来れば、飼い主の多くは健康管理プランを受け入れて達成するために真剣に取り組むだろう。動物病院を受診した際に、猫と飼い主特有のニーズに応えるには、まず動物病院がキャット・フレンドリーであることが重要である。



「猫のニーズを我々は深く理解し、クライアントもまた我々の高い専門性と知識を求めて来院します。こうして来院したクライアントは、猫にとってやさしい動物病院として口コミで病院の評判を友人にひろめてくれます。」

り除き、さらには動物病院への通院や入院時の猫のストレスを軽減する方法を提示する。また、飼い主と信頼関係を築くことで予防医療をよりスムーズに取り組んでもらえる。2006-2007年の間に、イギリスでいくつかの動物病院で「キャット・フレンドリー・クリニック」プログラムを導入したところ、飼い主や猫に対する知識や理解が増えたことで、収益の増加も既に実証され

猫が通院しやすい病院

猫の飼い主に「正しいこと」を促すにはどうしたらよいか？獣医師が生涯にわたり、最良のヘルスケアを提供するにはどうしたら良いか？当然ながら、獣医師と飼い主の協力関係を築く必要がある。そうすることで、猫を動物病院へ温かく迎え入れ、効果的なヘルスプランの提供ができる。そして、猫が病気や緊急事態のときだけでなく、幸せで健康且つ楽しく長生きできるよう手助けができるようになる。

この新しいISFMの“キャット・フレンドリー・クリニック”の基準はキャット・フレンドリーな病院になることで猫の飼い主の来院を妨げているいくつかの障壁を取



ている。また以下のようなコメントも寄せられている：

『猫の重要性は大きいと認識しており、飼い主は我々の猫に対する関心や知識の深さ感じてくれていた。常連の飼い主は、友人に我々の病院が猫にとって良い診療をしてくれると推薦してくれているようだ』

『予防医療を積極的に取り組めるようになった。我々自身が変わったことで、飼い主に対しても前向きに説明することができるようになった』

動物病院がより“キャット・フレンドリー”になることが第一であるが、猫の健康管理の重要性を普及する必要がある。こ



「予防医療に積極的に取り組む姿勢が求められています。我々自らの予防医療に対する取り組みの変化から、クライアントへ積極的に啓発を行っています。」

れらのことを達成するために、ISFMとロイヤルカナンは共同で「キャット・フレンドリー・クリニック」プログラムを始めた。このガイドラインでは、猫の習性だけでなくキャット・フレンドリーな病院になるための方法や、ISFMの基準に基づきセルフチェックができるようになってきている。こうした取り組みを実施することで、飼い主に対して本当の意味で他の病院との差別化をはかれるだろう。

獣医業界の競争は激化しており、臨床医がもし他の病院と差別化を図ろうとするならば、市場規模が拡大している中、猫の飼い主に働きかけることで「猫のビジネスとしての意義」を見出し実証されることが考えられる。